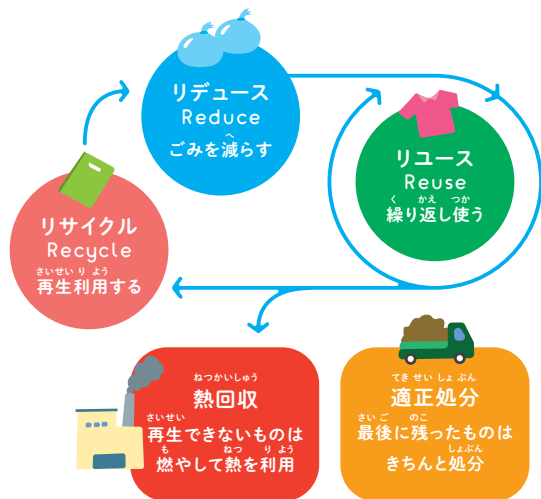


循環型社会づくり

わたしたちは、たくさんの資源を使ってものをつくり、ごみを出すことを繰り返してきました。しかし、資源には限りがあり、ごみを捨てる場所にも限りがあります。さらにごみを焼却する時に温室効果ガスが発生します。そこで、資源をぐみにしないで繰り返し使用する「循環型社会」をつくる必要があります。



スリーアール 3Rとは？

3Rとは、ごみの量を減らす(リデュース/Reduce)、繰り返し使う(リユース/Reuse)、再生利用する(リサイクル/Recycle)の3つの行動のことで、ごみの問題を解決するために、わたしたちは毎日の生活の中で3つの行動を心がけましょう。

R リデュース reduce
ごみを出さないよう生活の工夫をする／マイバッグ持参や詰め替え製品を選ぶなど

R リユース reuse
使い終わったものをごみにせず、繰り返し大切に使う／リターナブル容器(繰り返し利用可能)を使用した商品選びなど

R リサイクル recycle
ごみを資源として活用し、新しいものをつくる／リサイクルできるものを分別したり、エコ製品を使ったりする

愛媛県の取り組み

資源循環優良モデル認定制度

愛媛県では、循環型社会を築くためのモデルとなるようなリサイクル製品、3Rに積極的に取り組んでいる事業所やお店を、「資源循環優良モデル」として認定しています。また、みなさんに認定したモデルを広く紹介するとともに、活用していただくよう呼びかけています。

シンボルマーク



食品ロスとは？

日本ではどのくらいの食品ロスが発生しているの？

日本の食品ロス量は、年間612万トン(平成29年度推計)。国民一人当たりの年間食品ロス量は約48kgで、これは、国民一人当たりが毎日お茶碗1杯分のご飯を捨てているのと同じ量です。

食品ロスとは、本来食べられるのに捨てられてしまう食品のことだよ



日本の食品ロス量
約612万トン



家庭系 約284万トン
事業系 約328万トン



食品ロスを減らすために私たちができること

一人でできること

お家の人と一緒にできること

好き嫌いをせず、残さず食べる／食べ物や作ってくれた人に感謝して食べる／外食するときは、食べきれない量を注文する など

食材は必要なもの・分量を買う／食べきれない量を作る／食材の捨てる部分が少なくなるように料理する など



みんなのちよっとした行動で食品ロスは減らせる!



海洋プラスチックごみ問題

プラスチックは、ポイ捨てされたり、屋外に放置されたりすると雨や風によって河川に入り、海に流れまです。このような、「海洋プラスチックごみ」の量は、年間500~1,300万トンと言われており、このままだと2050年には世界中の魚の量を上回ると予測されています。わたしたち一人ひとりが、プラスチックごみを減らす取組をすることが重要です。

取組事例

マイバッグを持って買い物に行く／出かけるときはマイボトル(水筒)を持っていく／詰め替え製品を利用する／地域の清掃活動に参加する など



漂流ごみ
水面や水中に浮遊しているごみ。風や海流、潮流によって遠くまで運ばれることも。

漂着ごみ
海岸にうちあげられたごみ。大きな木や海草に交じって生活ごみや漁具などが漂着している

海底ごみ
海底に沈んでしまったごみ。漁具や缶・瓶だけでなく、レジ袋なども沈んでいる。